

(様式2)新規評価シート

林務部 森林づくり推進課

事業名		山地治山		路河川名等				
事業毎の通番		13	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	花園(かぞお)		
事業概要	事業目的	平成27年3月の融雪により、当該渓流の上部において山腹崩壊が発生した。渓流内には未だ不安定土砂が大量に堆積しており、今後の降雨により山腹の拡大崩壊及び不安定土砂の流出の恐れがあることから、山腹工及び谷止工を施工し、山腹面及び渓流の安定を図る。 また、渓流内の一部既設谷止工について、老朽化による機能低下を確認したため、増厚等の機能強化を図る。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1地域防災力の向上(災害に強い森林づくり)		事業実施の根拠法令等	森林法			
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家10戸、県道 400m、農地1.30ha、1級河川						
	着手年度	平成28年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成30年度	費用対効果	2.31	国庫	67,500	その他	県債 60,750 一般財源 6,750
全体事業内容(主な工種)	谷止工 2個、谷止工(増厚) 1個 山腹工 0.20ha 土留工 1個 実播工 2,250㎡ 森林整備 3.50ha			135,000	67,500			
年度事業内容(主な工種)	谷止工 1個			42,000	21,000	18,900	2,100	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、県道、農地、一級河川の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	○人家戸数:	10戸	評価				
		○公共施設数:	1ヶ所 県道		C			
	重要性	○災害時要援護者関連施設の有無:	なし	評価				
		○保安林・林業用施設:	保安林(25%)		A			
		○過去の災害履歴:	あり H27.3 融雪災					
	効率性	○交通遮断による地域経済への影響:	影響度大 渓流末端部周辺に集落あり	評価				
○流域防災計画上の位置付け:		あり	B					
○費用便益比(B/C):		2.31						
緊急性	○事業期間:	3年間 (H28~H30)	評価					
	○工法等の比較検討:	あり 山腹工の工種比較		A				
	○流域の総合調整:	今後調整						
計画熟度	○流域の地形、地質:	第3紀層泥岩かつ地すべり地形	評価					
	○平均渓床勾配(平均山腹勾配):	平均山腹勾配30°		B				
	○下流の堰堤等の整備状況:	あり						
部意見	○山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域:	崩壊土砂流出A	評価結果					
	○事業情報の共有:	地元住民他と調整済		総合評価	A			
	○地域の取り組み:	住民、長野市から事業計画に対し要望がある						
	○地域の合意形成:	周辺関係者との合意形成が図られている						
	○住民との協働:	なし						
	平成27年3月に集落上流部の山腹が崩壊した。放置すれば土砂が流下し、人家等へ影響を及ぼすおそれがあるため、対策を行う必要がある	行政改革課意見	流域内には不安定土砂が大量に堆積している。保全対象には人家、県道等があることから、重要性が高く、緊急性も認められる。	○	A			

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

写真②

写真③

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該地域は、第3紀層泥岩地帯であり、地質は脆弱で、表土流出が懸念される地域である。過去にも豪雨等により下流へ土砂が流出したこともあり、多数の谷止工が施工されている。平成26年11月の神城断層地震により、渓流上部の山腹に亀裂等が入り、3月の融雪期に崩壊し、下方渓流内に堆積した。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成27年5月に長野市、地元住民から早期復旧に向けての強い要望有り。
③事業説明等の経緯	現地調査に基づく、復旧に関する概要計画について平成27年11月20日に地元住民へ説明し、了承を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	このままでは、豪雨等により土石流が発生するおそれがあるため、早急な対策が必要。
⑥地域活性化への影響と配慮	山腹の拡大崩壊及び渓流内の不安定土砂の流出により、農地に近接する農業用水路の維持管理に影響を及ぼすおそれがある。
⑦その他	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 60' 東経:E 138° 00'

事業周辺環境